

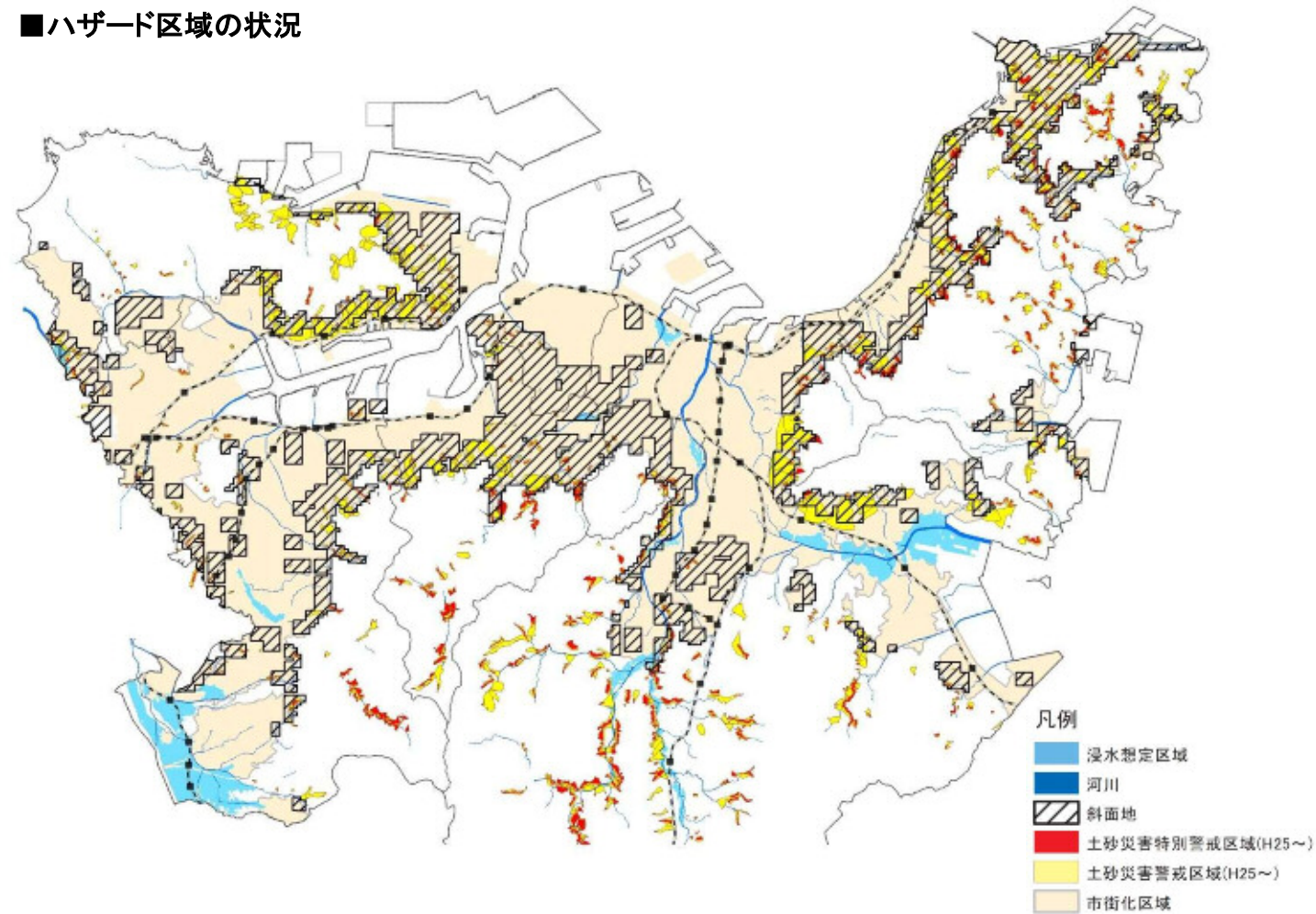
1-2-5. 災害

(1) ハザード区域の状況

- 市街地後背域に斜面地が存在し、「土砂災害警戒区域」等の指定箇所がある
- 二級河川では「浸水想定区域」の指定箇所がある

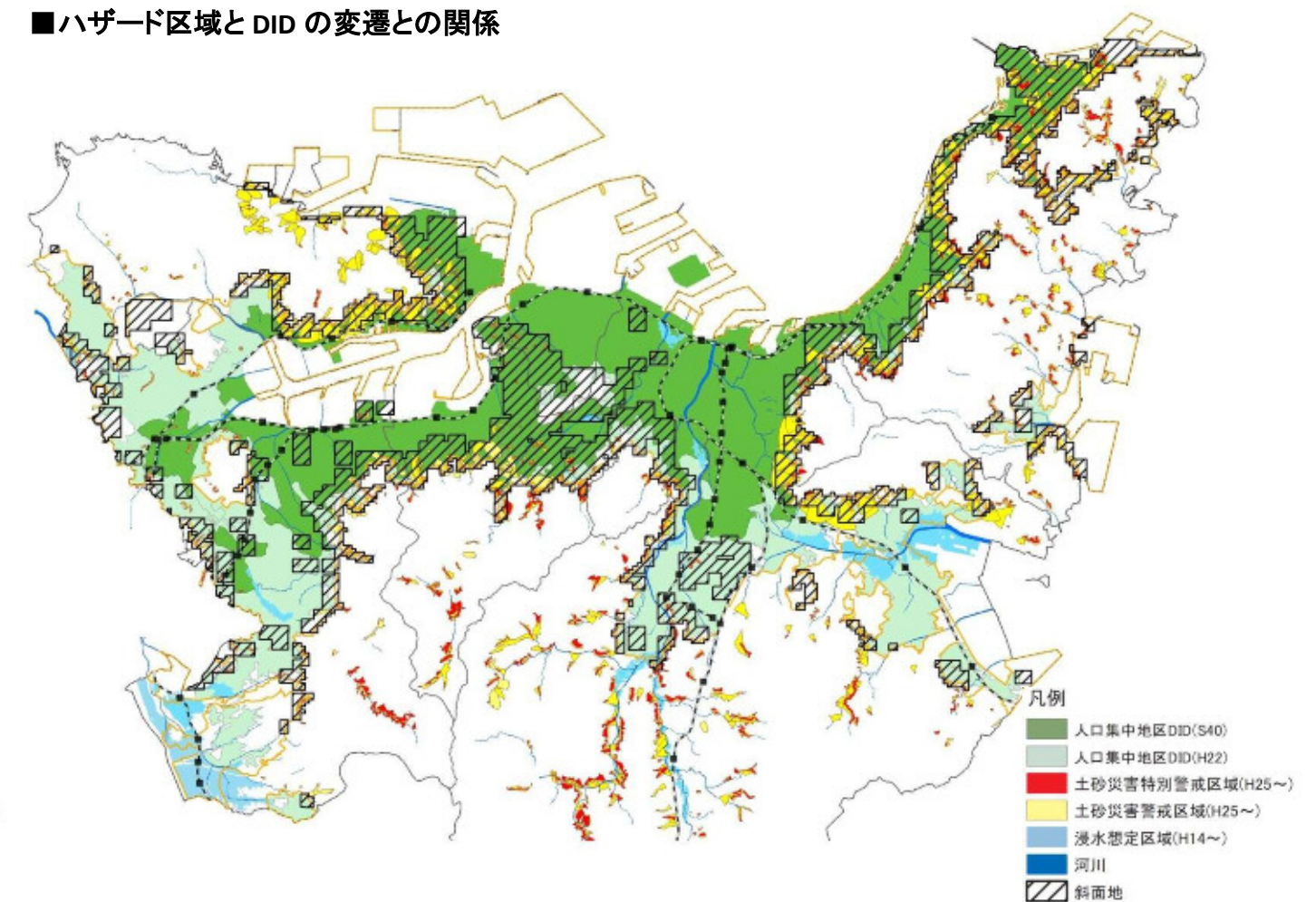
- 過去の開発圧力により、斜面地やハザード区域に指定されることとなる区域にも市街化が進行

■ハザード区域の状況



出典: 斜面地は、「国土数値情報(標高傾斜度 5 次メッシュ(H23))」データによる平均傾斜角度 5 度以上メッシュ地域
土砂災害警戒区域等は、福岡県「土砂災害警戒区域等」
浸水想定区域は、国土交通省または福岡県「浸水想定区域」

■ハザード区域と DID の変遷との関係



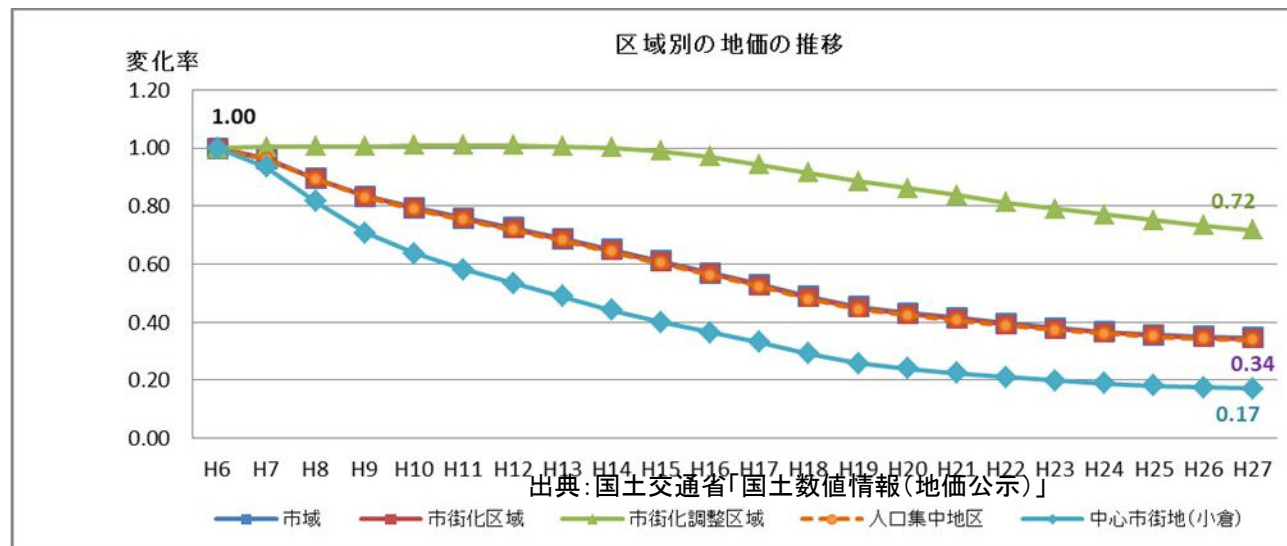
出典: 斜面地は、「国土数値情報(標高傾斜度 5 次メッシュ(H23))」データによる平均傾斜角度 5 度以上メッシュ地域
土砂災害警戒区域等は、福岡県「土砂災害警戒区域等」
浸水想定区域は、国土交通省または福岡県「浸水想定区域」

1-2-6. 財政

(1) 地価の動向と市街化区域内外の路線価

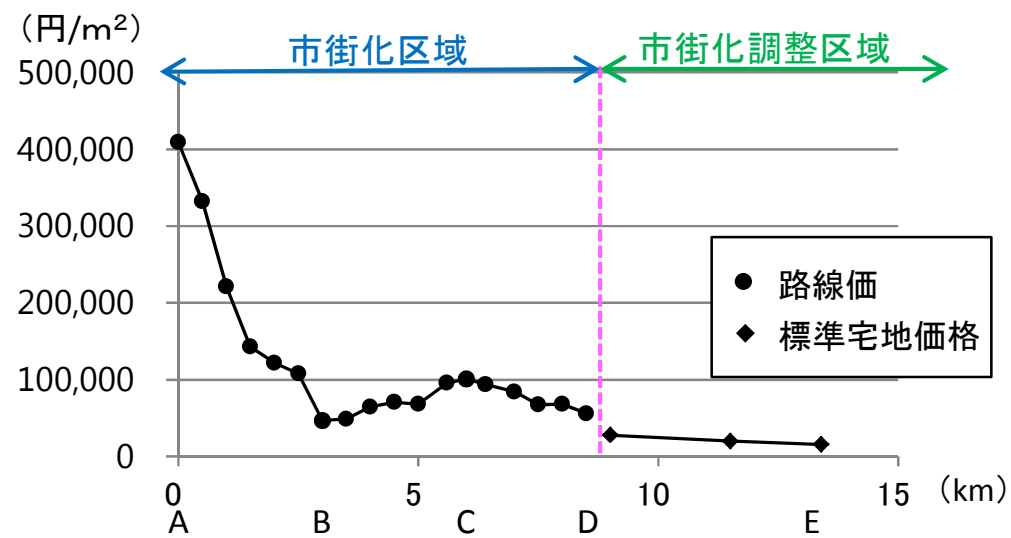
- 地価の推移を見ると、市街化区域等で一貫して下落し、特に中心市街地において下落が大きい
- また、地価は中心部から郊外に向けて低下傾向
- 人口減少や都市機能の撤退が進むと、地価が低下し、税収の確保が困難になることが懸念

■地価の推移



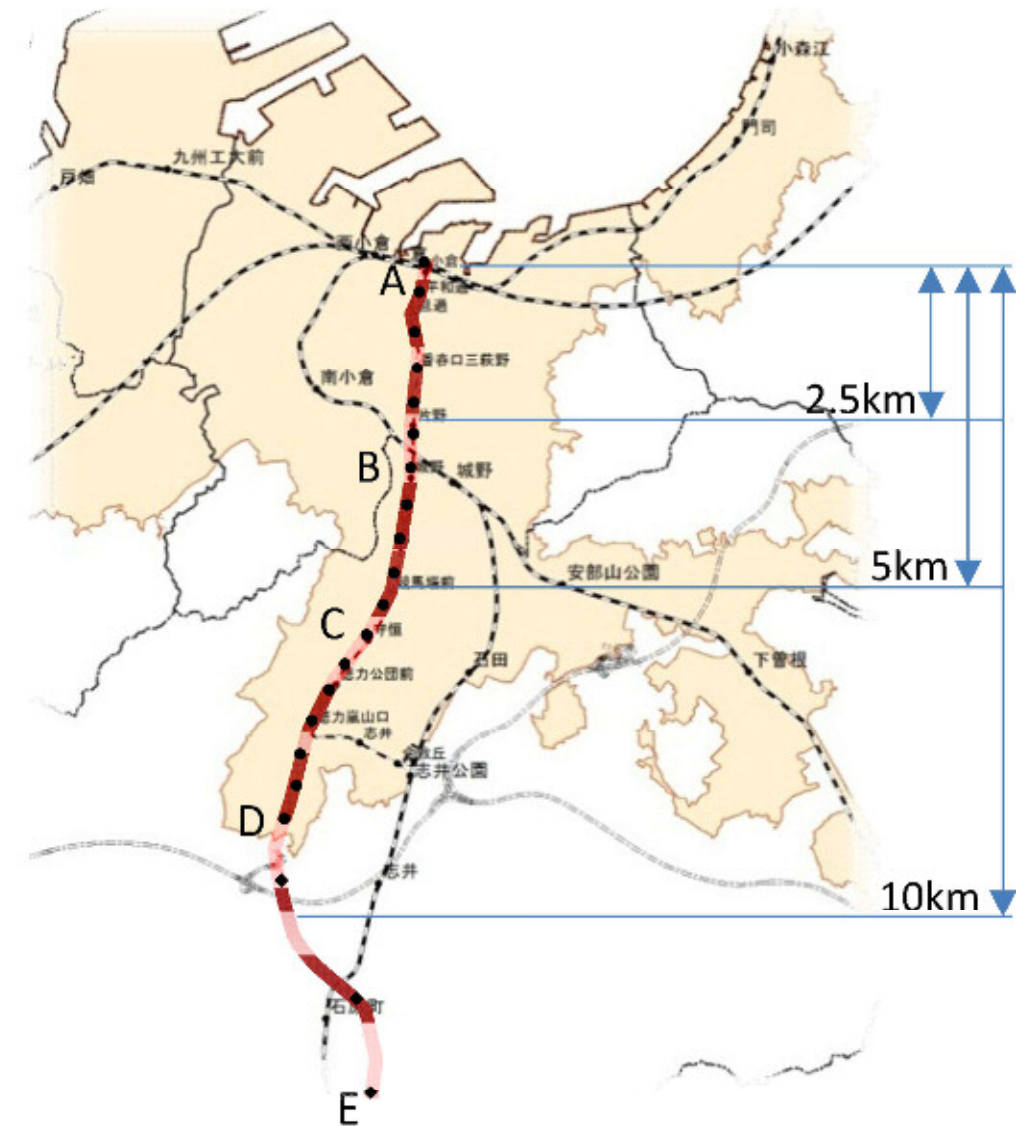
注)H6~H26まで、データ位置が継続している地点データを対象とし、変動率は、H6を1.0とした指数の平均として算出している。

■固定資産税路線価等の実態(JR小倉駅から国道322号線方向)



出典: (一財) 資産評価システム研究センター「全国地価マップ (<http://www.chikamap.jp/>)」平成26年度

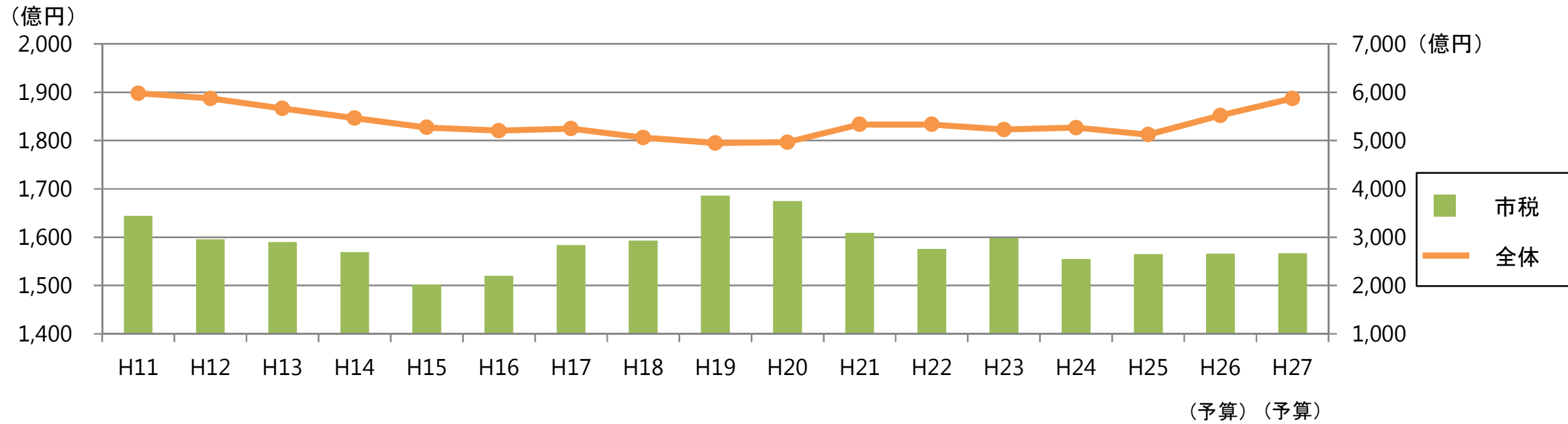
■JR小倉駅から国道322号線方向



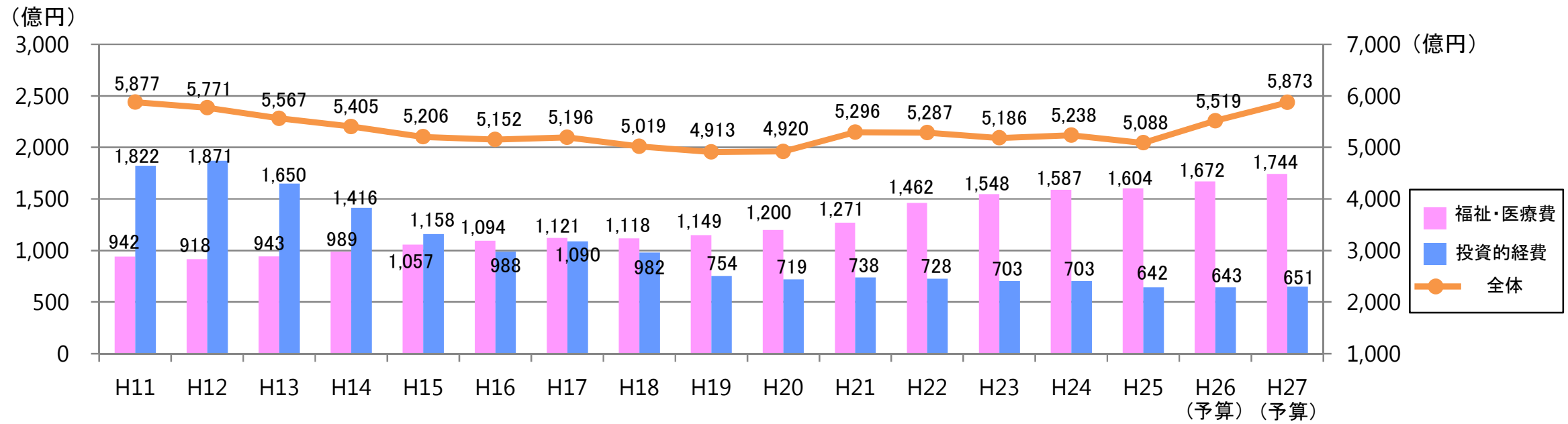
(2) 北九州市の財政状況

- 一般会計歳入における「市税」は、H19年以降減少傾向
- 一般会計歳出は、「福祉・医療費」が増加する一方、投資的経費はH12年の4割弱の水準に減少

■一般会計歳入の推移



■一般会計歳出の推移

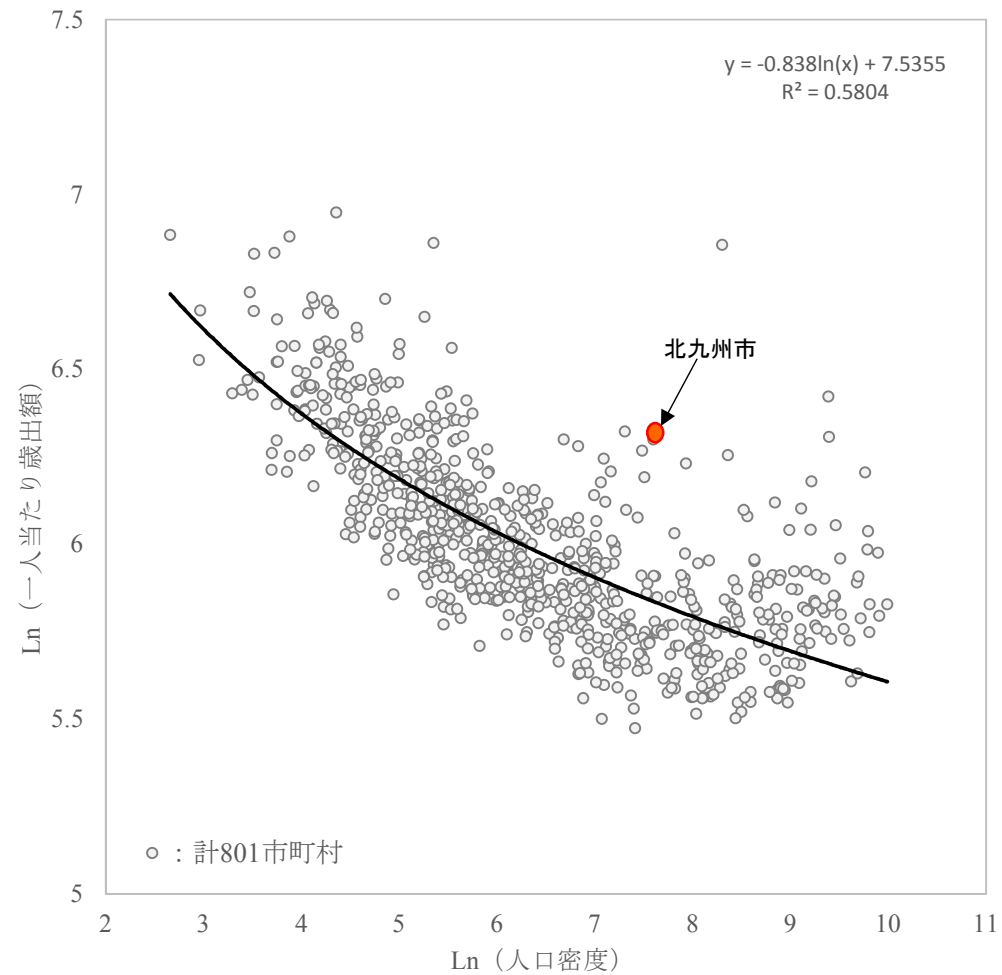


出典: 北九州市予算・決算資料

(3) 行政コスト（歳出額）

- 一般的に、人口密度が低いほど、一人当たりの行政コストは大きい
- 北九州市は、政令市中で2番目に行政コストが大きい
- 地域単位でも、公共インフラの維持に係る行政コストは、人口密度が低いほど効率が悪く、人口密度が高いほど効率がよい

■ 1人当たり歳出額と人口密度との関係



出典：国勢調査（H22）、市町村別決算状況調査（H22）

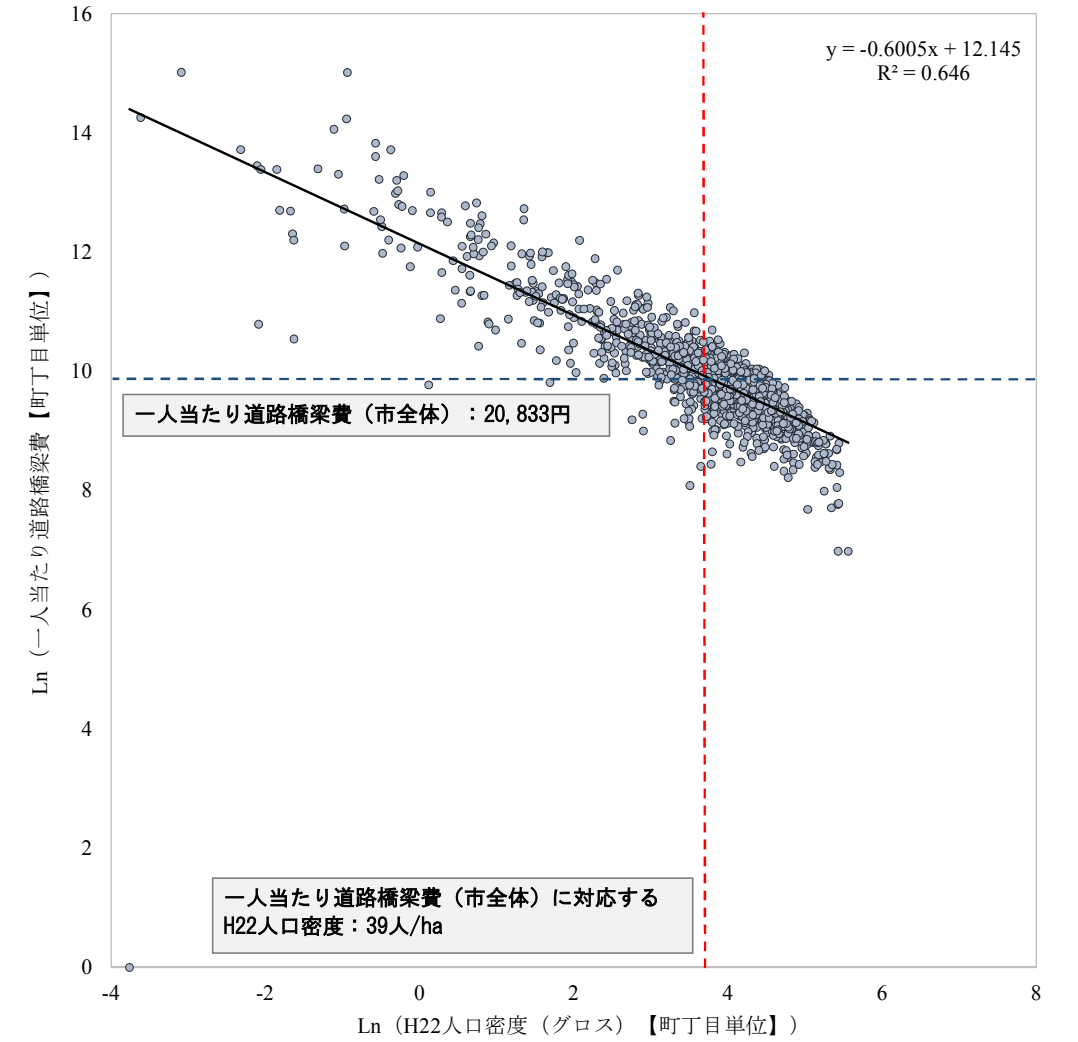
注）計 801 市町村を対象

注）人口密度および一人当たり歳出額は対数に変換

■ 1人当たり歳出額（政令市比較）

政令指定都市	1人当たり歳出額 (千円)
大阪市	616
北九州市	545
京都市	527
福岡市	520
神戸市	508
広島市	497
名古屋市	455
札幌市	435
新潟市	431
川崎市	421
千葉市	385
堺市	384
仙台市	382
静岡市	375
横浜市	374
熊本市	361
岡山市	353
さいたま市	350
浜松市	347
相模原市	316

■ H22 人口密度と一人当たり歳出額



注）一人当たり道路橋梁費（市全体） = 道路橋梁費 / 北九州市総人口（H22）

注）一人当たり道路橋梁費（市全体）に対応する H22 人口密度 は回帰方程式より予測

注）H22 人口密度及び一人当たり道路橋梁費は対数に変換

注）道路又は人が存在しない町丁目は対象としていない

出典：H22 国勢調査（小地域）、市町村別決算状況調査（H22）

(4) 公共施設の状況

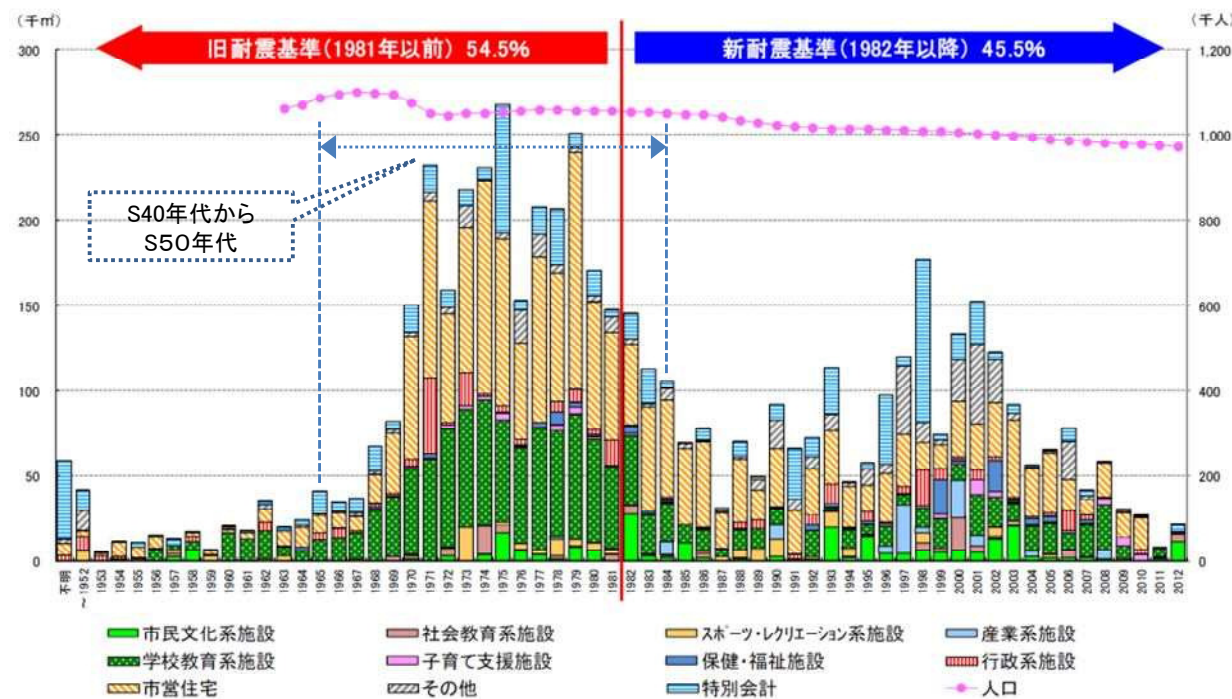
- 公共施設は、S40年代からS50年代に集中して整備
- 現在、1人当たりの延床面積が、政令市の平均の1.5倍で最大

■公共施設の保有施設状況(施設分類別 延床面積)

施設分類		延床面積 (㎡)	構成比	
普通会計	市営住宅	2,069,364	38.2%	
	学校等	1,316,166	24.3%	
	市民・企業利用施設	市民文化系施設	247,667	4.6%
		社会教育系施設	96,602	1.8%
		スポーツレク施設	125,803	2.3%
		保健・福祉施設	89,746	1.7%
		子育て支援施設	65,040	1.2%
		産業系施設	93,344	1.7%
	その他	行政系施設	250,782	4.6%
		その他	371,898	6.9%
小計	4,726,412	-		
特別会計		689,149	12.7%	
合計		5,415,561	100.0%	

※出典 北九州市総務企画局調査 (平成25年3月)

■公共施設の築年別の状況



■公共施設の保有施設状況(政令市比較)

順位	自治体名	延床面積 (㎡)	人口(人)	1人当たり面積(㎡)
			H22年度国勢調査	H22年
1	大阪市	12,570,846		
2	名古屋市	9,989,077		
3	横浜市	8,647,360		
4	神戸市	7,210,204		
5	札幌市	5,619,155		
6	福岡市	5,240,954		
7	北九州市	4,886,177	976,846	5.0
8	京都市	4,853,036		
9	広島市	3,977,483	2,665,314	4.7
10	川崎市	3,561,509	1,544,200	4.7
11	仙台市	3,285,649	2,263,894	4.4
12	新潟市	2,662,557	1,463,743	3.6
13	浜松市	2,651,787	1,173,843	3.4
14	千葉市	2,606,292	800,866	3.3
15	さいたま市	2,506,715	1,474,015	3.3
16	静岡市	2,295,224	811,901	3.3
17	堺市	2,116,542	716,197	3.2
18	岡山市	1,961,721	1,045,986	3.1
19	相模原市	1,634,858	1,913,545	2.9
	平均	4,646,166	709,584	2.8
			961,749	2.7
			841,966	2.5
			1,425,512	2.5
			3,688,773	2.3
			717,544	2.3
			1,222,434	2.1
	平均		1,390,416	3.3

※出典 総延床面積：各政令市平成22年度決算資料 (特別会計の一部は含まれない)
22年度人口：国勢調査

出典：北九州市「第1回行政改革推進懇談会資料5」